

Fate/grand jorkers!

ブータス・ハイパー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

夏休みの宿題として偉人を調べることになったジョーはバイナラドアの進化系バイナラズ・ゲートを作り過去の偉人に直接会うことにする。

しかしそこはドラゴンが人々を蹂躪するフランスのオルレアンだった。

目次

設定集

オリカの倉庫

1

始まりの地ジヨー

大冒険！フランスに魔女が登ジヨー？

6

百年戦争の地 交わる運命

10

惨ジヨーと会合の時

14

非ジヨー事態！制御不能のジョーカー

ズ誕生！！？

20

設定集

オリカの倉庫

バイナラ・ゲート／冒険溢ルル世界へノ扉（ゲート・オブ・スカイ）

クリーチャー

10マナ5000 ジョーカーズ ゼロ文明

Wブレイカー

スーパードットS・トリガー（この呪文を自分のシールドゾーンから手札に加える時、コストを支払わずにすぐ召喚してもよい。その時、自分のシールドが1つもなければ、このクリーチャーにS能力を与える）

??このクリーチャーがバトルゾーンに出たとき手札にあるジョーカーズを2体までバトルゾーンに出す。

S1相手のマナゾーンのカードを1枚墓地に送る、さらにこのとき落としたカードのコスト以下のコストをもつ相手のカードをすべてバトルゾーンから墓地に送る。

呪文

5 マナ ゼロ文明

このターン自分のクリーチャーは全て「Tブレイカー」と「スピードアタッカー」を得る。

バイナラドアの強化版

場所だけでなく時間も移動できるクリーチャーだったが、なぜか異世界にも移動できるとはジョーも思っていなかった。

移動先は目的地と少しズレるみたいなので注意。

たまに勝手に扉が開いて中から全身タイツのお姉さんやドレスを着たお姉さんが現れる。

「・・・なぜ影の国への扉がここに繋がるのだ」

「僕に聞かれても・・・」σ(´|´;) ;)

「まあこれも作者の趣味やな！ほなバイナラナラー」

「さて！私を元の場所に戻せええええ！」

蒸気装王カイザー・バベツジ

／起動せし灰燼世界（ディメンション・オブスチーム・パワー）

クリーチャー

6 マナ 6000 グレートメカオー／英霊団水文明

W・ブレイカー

ブロッカー

このクリーチャーまたは自分の他の英霊団を持つクリーチャーをバトルゾーンに出した時、カードを1枚引いてもよい。

呪文

6 マナ 火文明

山札の上から3枚を見るその中から1枚を手札に加え、残りを墓地に送る。

さらに、この時墓地に送られたカードのコストより低い相手クリーチャーを1体選びそれを破壊する。

クリーチャーとなった蒸気王

コンピュータ用語がモチーフの機装とレインボーに着く機王を繋げた。

カイザーは階差機関がモチーフ

パワードはパワーボタンを表している。

「蒸気圧最大！」

「めっちゃカッケー☆」

目を輝かせるジョー

「まさか英霊をクリーチャーとして召喚するなんて」

啞然とするロマン

切り開くぜ！英雄の運命（オープンザフェイト）

呪文

ジョーカーズ

10マナ ゼロ文明

アタックチャンス：コスト7以上の英霊団／ジョーカーズ（自分のコスト7以上の英霊団またはジョーカーズが攻撃する時、この呪文をコストを支払わずに唱えてもよい）

カードを5枚まで引く。その後、自分の手札を3枚、相手に見えないで選ばせ、それを相手に見せる。その中から好きな枚数の英霊団またはジョーカーズをバトルゾーンに出す。

ジョーが英霊召喚システムをモチーフに生み出したジョーカーズ。

英霊の座に接続し（たまに全く別の場所に接続される）ランダムに英霊をクリーチヤーとして召喚する。

見た目は召喚の紋章が印字された

黄金の剣と鞘。

ジョーが剣を掲げそのまま円を描く（牙狼の変身まんま）ことで発動される。

ただしジョーの身長が1.5倍があるので

かなり苦労する。

「これで俺もマスターだ！」

喜ぶジョー

「ジョー様、カード化させるの忘れないでくださいね」

注意するデツキー

「・・・」Σ（・□・；）

驚きすぎて何も言えなくなった

カルデアの皆さん。

始まりの地ジョー

大冒険!フランスに魔女が登ジョー?

「ん〜」

セミがうるさい夏の昼下がりに、

しかしセミとは異なる音がが部屋に響く。

「ぜんぜんわかんない」

「ジョー様、さつきからそれしか言ってますよ」

「だって難しいんだもん。」

「偉人の人生から学んだことを自分なりにまとめる」なんて宿題、今までやったことないもん!」

今年の夏は読書感想文がなくて喜んだ矢先にこんな宿題が出されるとは思ってたな
かった少年・・・切札勝は「マンガでわかるジャンヌダルク」という本

の前でうなだれている。

「でもそれ以外の宿題は終わったんですから大丈夫ですよ」

「そうだけど・・・」

「そうだ！」

「デツキー、バイナラドア出してよ」

「何故ですか？」

「ジャンヌダルクに直接会いに行く」

「はあー!? 無理ですよ！ バイナラドアはタイムマシンじゃないんですからね！」

「そっかあ〜」

「ジョー様、ここはもうひと頑張ら〜」「じゃあ作っちゃおう！」・・・へ？」

「そういうとジョーは早速画用紙に色鉛筆でクリーチャーを書いていく

「上手じゃなくても

ジョーが描く

ジョーカーズ

たんジョーだ！」

画用紙には大きな門に目が2つ付いた

クリーチャーが描かれていた

「出来た！ バイナラズ・ゲート。」

「早速デツキー宜しく」

ジョーはそういうと画用紙を丸め、デツキーに突き出す

「分かりました」

そう言うのとデツキーは丸めた画用紙を食べ始めサンバを踊り始め自分の尻をジョーに突き出した

「さあジョー様

お願いします」

デツキーがそういうとジョーは先端にDMという形になっている鍵を躊躇いもなく尻にぶっ刺した。

するとデツキーが口から光を放ち

その中から絵に描かれたクリーチャー

・・ジョーカーズが現れた

「バイナくら」

「バイナラズゲート、早速昔のフランスへ連れてって」

「ええで」

そういうとバイナラズゲートは扉を開く。

しかし、扉の先は暗く奥にかすかな光があるのみである。

ジョーは行燈どろんを出し光の方へ向かった。

ジョーは光に近づくに連れそれが外に続く出口だと分かった。

「なんとか外には出られそうですね」

「一時はどうなるかと思つたよ」

そしてジョーたちが外に出ると目の前には広い草原が広がっていた
「ちゃんと来れたみたいやなあ」

ほなバイナラナラ」

と言つてデツキーの元に戻つていった

ジョーは勢いよくかけだし

「よーしー！ジャンヌの元へしゅっぱーっ

のわ!？」

壮大に転んだ。

ジョーはまだ知らない

この世界が別の世界だということ

そしてその世界の人理が崩壊したこと

そしてカルデアという組織がそれを食い止めようとしていることを

今、7つの特異点を巡る大冒険が始まる！

百年戦争の地 交わる運命

? 「前回までのデュエルマスターズ!!」

俺は切札ジョー!

俺の描いた絵を本物のクリーチャーにしちゃうデツキーと一緒に楽しくやってる。

夏休みの宿題でジャンヌの事を調べるために昔のフランスにタイムスリップした!

? 「一方この時代のフランスに訪れた者たちが他にもいた!」

ナレ「あ、こんにちは私 ナレーターの助と申します以後お見知り置きを

それでは本編スタート!」

???
side

ある草原にて、この時代の人にしては変な格好をした4人組と1匹がいた

? 「レイシフト成功、ふう・・・大丈夫ですか先輩」

? 「うーん、大丈夫みたい。他のふたりも大丈夫？」

? 「私は大丈夫だ」

? 「私も大丈夫です、マスター」

? 「そうかーよかった♪」

? 「——マスター。時間軸の座標を確認しました。どうやら1231年です」

? 「ちょうど百年戦争の真っ只中だな」

? 「エミヤさんの言う通りです。」

ただこの時期はちょうど戦争の休止時期のはずですよ

休止?と先輩と呼ばれた少女

藤丸 立花が尋ねる

エミヤ 「百年戦争といっても百年ずっと戦争したわけではないからな、この時d「皆さん上を見てください」・・・どうしたアルトリア?」

アルトリアと呼ばれた少女の言葉で皆が上を見る

——上空にはとてつもなく大きな光の輪があった。

そのとき突然4人とは別の声が聞こえてきた。

? 「よし! 回線繋がった

画像は荒いけど映像も通るようになったぞってどうしたんだいみんなして上をみて
?」

? 「ドクター、映像を送ります

あれはなんですか?」

その映像を見たドクター・・・ロマン二・アーキマンは不思議そうな顔をした。

ロマン「光の輪・・・

いや、衛星軌道上に展開した何らかの魔術式か・・・

なににせよこの時代にこんな現象がおこった記録はない。

アレはこちらで解析するからマシユ達は現地調査を進めて霊脈を探してくれ」

と言うとロマンは通信を切った

立花「まあ一つずつこなししていこう!」

アルトリア↓アル「まずは街を目指しましょう」

それにみな領きまちを指すことになった。

しばらくすると数人の兵士が見えた

エミヤ「どうやらフランスの斥候部隊のようだ」

マシユ「どうします？ 接触を試みますか？」

マシユの提案にみな同意したが

？「フオウ！」

兵士「ヒツ！」

敵襲！敵襲！」

同行していた変な生き物のフオウのせいで台無しになってしまった。

ロマン「うひゃああ!? なんで君たち囲まれているんだい!？」

立花「とりあえず峰打ちで抑えよう！」

マシ・エミ・アル「「どうやってや（るんだ）ればいいんですか!？」」

マシユ「峰打ちが軽かったようです、

撤退されてしまいました」

ロマン「砦に向かったようだね、そつと追いかけて状況を問い詰めよう」
そういうとみなは砦に向かっていった。

惨ジョーと会合の時

前回までのデュエルマスターズ!!

俺は切札ジョー!

俺の描いた絵を本物のクリーチャーにしちやうデツキーと一緒に楽しくやってる。

過去のフランスに来たのは俺たちだけじゃなかった!

しかもジンリが燃えちやったらしい!

・・ていうかジンリって何?

とりあえず本編スタート!

ジョー side

とりあえず出発したが、ここがどこか分からず元の場所に戻った。

「そーいえばこの建物って何だろ?」

「碧ですね、人はいないみたいですけど食料があるのでもしかするとだれか戻ってくる
かもしれませんが」

「じゃあその人に色々聞けばいいや」

「でもジョー様、フランス語話せませんよね？」

「大丈夫、ホンヤクツツヤク！」

すると翻訳機と三味線を混ぜたようなクリーチャーが出てきた。
すかさずデツキー

が反応する

「いやジョー様津軽弁聞き取れないでしょ!!」

ジョーは目をそらしながら

「そこは・・・デツキー頑張つて☆」

その後も言い争いが続いたが、突然

誰かが来る音が聞こえた。

誰だろ?と思ひ砦を出ると

数人の兵士と変な格好の集団と大量のドラゴンがいた。

「ナンジャコリヤー！」

「ジョー様！取り敢えずあの化け物を倒しましょう！」

「う、うん。」

きてドンジャングルS7!」

ジョーがそう叫ぶとデツキーの中から

巨大なクリーチャーが現れた。

立花 side

特異点Fで色々なものを体験して

大抵のことには驚かないと

思っていた。

だが目の前の光景に私は驚きを隠せないでいる。

目の前には凶暴なワイバーンをクローの様なものを使って次々と倒していく謎のロボット?がいる。さっきまで戦っていた兵士はこのロボットに怯えて逃げ出してしまった。マシユ達や謎の女性も状況を飲み込めていないようだ。

いつのまにかワイバーンは全滅し、

戦場には私たちとさっきのロボットだけとなった。

取り敢えず助かった。まずは彼女が誰か聞かなきゃと思いきや声をかけようとする。

突然、ロボはこちらに襲いかかってきた

すかさずアルトリアがロボめがけて斬りかかろうとするが、その瞬間盾を2つ持った子供が二人の間に入り2つの攻撃を防いだ。

ジョー side

少し前

「とりあえず俺も行かなきゃ!」

「エエ!?さすがにあの中に入ったらひとたまりもありませんよ!」

「だったら・・・来てワイルド・シールドクライマックス、ワンコピー!!」

ジョーがそういうとJの紋章の掘られた盾とコピー機を犬のようにしたクリチャーが現れた。

「ワンコピー早速お願い」

ワンコピーは頷きワイルドシールドクライマックスの方を向き

「ベローン♪」

盾を舐め出し、それを終わるとワンコピーの中から小人人形が現れ変形して同じ盾となった。

ジョーは盾についた足を両腕に絡ませ

「完成!ワイルドシールドダブルマックス!」

「なんか違う気が……ってかジョー様みてください。ドンジャングルが全部やってくれたみたいですよ。しかし消滅してないということはあれはクリーチャーではなかったということですか。」

その時、ドンジャングルが人間の方に襲いかかろうとしていた。

「まずい！ヘルコプター着地任せた！」

そう言つて砦から戦場へ駆け出す。

現在

「「めっちゃイデエー！！」」

草原に3つの叫び（2つは同じ声で）が木霊した

「やば!? アルトリア！取り敢えずその少年を連れて戻つて！」

立花の指示にアルトリアは頷くが、少年は

ドンジャングルに向かって

「ドンジャングル！なんでヒトを攻撃したの！ちゃんとこの人たちにゴメンなさいして
！」

その発言にドンジャングルは申し訳なさそうにこちらを向き頭を下げる

「「「……へ？」」」

5人の素つ頓狂な声が残った。

非ジョー事態!制御不能のジョーカーズ誕生!??

前回までのデュエ r

「ちよつと待ったー!」

ちよつと!ナレーション中に

割り込んだじゃダメよジョー君(?!?!;)

「もう4話目なのにデュエマしてな

いじゃあないですかー!!?」(*、ω)

じ、次回はデュエマしますから落ちついて(汗)

「・・・分かった」

ごほん

では本編スタート!

立花 side

この子の手当てをしながら、私は隣で1つになっていた盾にバツテンにした絆創膏を叩きつける白衣を着たモンスター（ジョー君曰くクリーチャーと呼ぶらしい）がいた。

「えつと・・あのクリーチャーは誰？」

「あれはドクターDr. ストレンジなドクターだね」

・・・どこかで聞いたことあるような

気がするが、気にしないでおう

「・・・それにしても歴史がめっちゃめっちゃになってそれを修正するためにタイムスリップしてきたなんてすごい人たちだなあー」

（夏休みの宿題の為にタイムマシン作っちゃう君の方がすごいよ）

ジョー side

ドンジャングルをデッキに戻しお互いに事情を話した。

普通の人にジョーカーズを見せてしまったが聞いたところバイナラズゲートは過去どころか別世界に連れてくるとは思わなかった。それにしても歴史を修正する為に英雄を味方にするなんて。

・俺もやってみようかな?

そう考えているとマシユお姉ちゃんが

旗を持った女性へ声をかける。

「先程は助けていただきありがとうございます、真名を聞いてもいいですか?」
すると女性はジョーの方を向き

「クラスはルーラー、真名はジャンヌ・ダルクです」

笑顔でそう告げた

カルデア side

ジョーがジャンヌに色々質問している時

立花達はロマに達と今後話し合っていた

ロマニは画面からダヴィンチの方を向く。

「君はジョー君のことをどう思う?」

「うーん、ちよつと可愛くてかつこい男の子って感じ♪」

「いやそうじゃなくって・・異世界から来たって話」

「うーん、なんとも言えないな」

「バイナラズゲートだっけ?」

本当ならそれを使ったとしてもこの世界に来ることなんて
出来ないはずなんだ」

「いくら別の世界から来たって言っても

少なくともクリーチャーが存在する世界はない。

ジョー君はこの世界にこれたけれど

こちらがその世界に行くことは出来ない

たとえ魔法を使ったとしてもね。」

少しの静寂が場を支配する。

今の話を聞く限りジョー君は元の世界に帰れないかもしれないのだ

もし帰れないとしても、カルデア側で保護したいが

サーバントではない彼を連れてくる方法がない。

「とりあえずこのことはジョー君には内緒にしとこう」

話し合いが終わり皆がジョーとジャンヌの方をむいた

そこには黄金の剣と対峙するジョーの姿があった。

ジョー side

・まさかこんなにも早くジャンヌに会えるとは思はず

大喜びのジョーは宿題のために色々なことを聞いた

カルデアの人たちの中でジャンヌがもう一人いると聞いて

姉妹がいるのかと聞いてみたが。

「確かに兄妹は何人かいましたけど

私自身が竜の魔女として復活したみたいです・・・」

「うーん僕も手助けしたいけどジョーカーズ達じゃ

みんなに怪しまれるし。

俺もサーバントを召喚できればいいけど」

「ジョー様、流石にそれは無理ですよサーバントに関連

するものなどがあれば話が別ですが・・・」

「それならこれを使ってみてはどうでしょう?」

そういつてジャンヌは虹色の物体取り出した

「さつき見つけてカルデアの人に見せたのですが

どうやらサーバントの召喚に使えるものらしいんです。」

「ほんと！ジャンヌお姉ちゃんそれちょうだい」

「いいですよ、でもそれでどうやって？」

ジャンヌは渡しながら尋ねた

「まあみてよ、デッキー

こ・れ・た・べ・て・」

「ちよまつてジョースフガツ」

石をデッキーの口に入れた後ジョーは何処からか

画用紙と色鉛筆を取り出し生み出すクリーチャー

を書いていく。

「ジョー君とても絵がうまいですね♪

これは・・・剣ですか？」

「うん！・・・完成！」切り開くぜ！英雄の運命（オーブンザフェイト）」

そう言うのとデッキーの口に画用紙を突っ込む

「フンガ〜」

そしてデッキーの中から新しいジョーカーズが生まれた。

しかし次の瞬間剣は鞘から離れ

劍先をジョーに向けつつこんで来た。

すぐさまジャンヌがジョーを守るように立ちはだかる

「・・・我と戦え」

「なぜジョー君に攻撃しようとしたのですか!」

ジャンヌの問いにオープンザフェイトは答えず

「ジョー!我を従えたくば真のデュエマで貴様の強さを証明せよ」

フェイトが言い終わると同時に立花達がこちらに駆け寄る

「何?!?どうゆう状況?」

「お前達に用はない」

そうゆうとフェイトの鞘の方が地面に刺さり

透明なフィールドを形成し

ジョー以外を吹き飛ばした

ジョーは覚悟を決めフェイトの方を向く

「・・・分かったお前を真のデュエマで倒してやる!」

そう叫ぶとジョーはデッキを前に突き出す

それに応えるかのようにフェイトは回転すると空に召喚サークルが表れ

そこからデッキが出てくる。

「真のデュエマ!!」

今戦いの火蓋が切って落とされた